



担い手通信



JA bank Mix



農研機構が披露したロボット田植え機
リモコンで発進停止、速度を指示する

田植え機は8条植え。市販機に、GNSS受信機や

Topic
今月の話題

ロボ田植え機 高い精度を実証 畦から操作スムーズな旋回

農研機構

農 研機構・農業技術革新工学研究センターは7月6日、埼玉県鴻巣市で移植作業が無人化できるロボット田植え機を披露しました。高精度なリアルタイム衛星測位システム(RTK-GNSS)を使い、熟練者並みの真つすぐな移植ができます。作業者は畦(あぜ)から田植え機に苗を供給します。作業人数が減らせ省力化につながります。実演会では、実用化に向けて農家や農機メーカーと意見を交わしました。

え機が反対側の畔まで移植しながら走行し、旋回して移植しながら戻ってくる作業を繰り返します。一往復ごとに自動停止するため、苗を補給してリモコンで再発進させます。

自動操舵(そうだ)機能などを組み込みました。水田では、車体が傾きアンテナの位置情報がぶれるため、傾きを基に位置を補正。誤差センチの精度で移植できるといいます。

無人の移植作業は、始めに作業者が操作して畦に沿って3辺を移植して田植え機に水田の大きさを認識させます。認識作業が終われば、リモコンで田植え機の発進・停止を制御します。無人で田植

実演会では、2畝の水田で、最大速度の秒速1・86メートルと高速で熟練者並みの真つすぐな移植や、スムーズな旋回を披露しました。農研機構・農業技術革新工学研究センター土地利型システム研究領域の山田祐一研究員は「田植えには操縦と苗供給の2人が必要だが、自動化で1人は別の作業に専念できる」と説明。規模拡大を後押しできると期待しています。

無人作業を見た市内で水稻5畝を生産する80代の農家は「誰も乗らずに移植も

真つすぐ。こういう時代になるのかと驚いていました。

開発機は四角の水田での利用に限定されますが、実用機は、いびつな水田でも対応できるようにします。共同開発する農機メーカーを募り、実用化を目指します。

数字でみえる 三重県の農と食

56

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

市民農園の開設数

三重県の「市民農園整備促進法」及び「特定農地貸付法」に基づく市民農園は、農林水産省「平成28年度 東海食料・農業・農村情勢報告」によると2016年3月末現在で、56カ所開設されています。

開設主体は農業者が21カ所、地方公共団体が11カ所です。全体の面積は26ヘクタール、2695区画で市民が農作業を行い、農業への理解促進や農地の有効活用などの役割を担っています。



ピックアップ pick up

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介する。

太陽光発電と茶生産の両立探る 被覆率5割で収量8割維持

茶

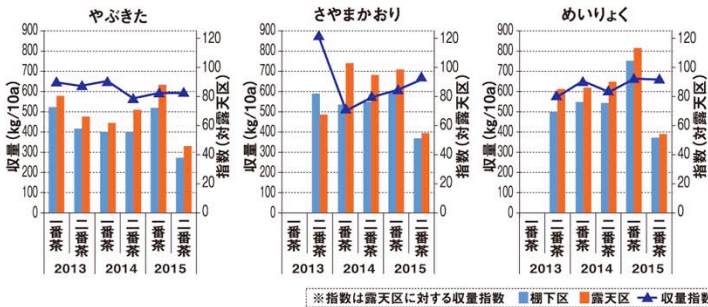
生産における営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）の可能性を探るため、三重農業研究所は、恒常的に光が制限される環境での茶の生育反応を明らかにしました。試験では、茶園の被覆率を50%にした場合の茶の収量は、露地栽培の80%前後でした。

ソーラーシェアリングは、農地に太陽光パネルを等間隔で配置し、発電と営農を同時に行うもので、生育環境の維持が課題です。同研究所が行った試験では、茶園に90%幅の模擬パネルを地上2・5mの高さで、被覆率が50%になるように南北方向に等間隔で配置し、43%の光を遮りました。やぶきたなど3

品種で調べたところ、10ヶ年当たりの収量は3年間で一、二番茶とも80%を維持し、収量の減少は、芽数の低下が大きな要因とみられています。

また、同研究所は、パネルから雨粒が集中的に垂れ落ち、炭そ病の発生を助長したため、設置に当たっては留意が必要としています。

模擬パネル設置下の3年間の収量



お問い合わせ先 三重県農業研究所 茶業研究室 ☎0595-82-3125

JAみえきた

三重なばな 生産拡大 大会を開く

JAみえきたは7月6日、「2017年度JAみえきたなばな生産者大会」を桑名市で開いた。JAは生産拡大へ向けて栽培する仲間を増やす運動として今年度も、ちらしの配布や、新規作付け希望者に試作用の苗を無料配布する。「1畝増反」運動も進める。大会には、生産者や関係者ら141人が出席。三重県の伝統的なブランド野菜「三重なばな」の生産拡大を目的に、毎年開いている。JAの萩隆組合長は、あいさつで「ナバナは誰でも手軽に作付けができる作物。一人でも多くの仲間を誘ってほしい」と呼び掛けた。

(2017/7/9 エリア東海)

JA鈴鹿

加工用カボチャ 出荷ピーク

JA鈴鹿加工野菜部会の加工用カボチャが出荷ピークを迎えている。安定して収穫でき、食味の良い「えびす」を栽培。3月中旬に播種（はしゅ）し、4月下旬に圃場（ほじょう）へ植え付けた。約30トンの収穫を見込んでいる。部会は、加工野菜の農家の生産意欲や栽培技術の向上を目的に2013年3月に設立。部会員13人が、約3畝で生産する。農家の所得向上につなげようと、共同利用できる木枠のコンテナを出荷時に使用するなど、資材の経費節減を行い、共同出荷により市場への安定供給に努めている。

(2017/7/16 エリア東海)

JA三重中央

加工用トマト 色や品質確認

JA三重中央は7月7日、津市のふれあいセンターで加工用トマト目ざろえ会を開いた。管内の農家14人が参加。規格に合った色や品質、完熟度などを確認した。トマト苗の定植は4月中旬に行い、他に収穫できる野菜が少ない7月中旬～8月中旬に収穫する。農家の所得向上に向けて、5年前から取り組む。2017年度は管内の生産者20人が計58.4畝で栽培。前年度の17人、計52.6畝から、生産者数、栽培面積ともに増加した。

(2017/7/12 ワイド2東海)

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します！

JAバンク利子補給制度のご案内

最大年1% 利子補給

JAバンクでは、農業者のみなさまに対して、借入負担の一部を軽減することにより、農業経営の安定化・効率化を支援します。

農業経営資金

農業を営むすべての方に

農機ハウスローン

農機具や軽トラックを急いで買い換えたい方に

スーパーS資金

短期の運転資金が必要になった方に

JA新規就農応援資金

農業を始める方や始めたばかりの方をバックアップ

JA持続的農業応援資金

ベテラン農業者の方をバックアップ

JA飼料用米等対応資金

飼料用米等の生産拡大に取り組む方に

農業近代化資金

認定農業者の方や一定の条件を満たす農業者の方に

農業近代化資金については、利子補給・利子助成内容がJAにより異なる場合があります。詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成29年7月現在

《金利情報》平成29年7月20日現在

農業近代化資金

実質金利

年0%～0.30%

(固定金利)

※認定農業者の方は、市町や(公財)農林水産長期金融協会の利子補給等により、お借入ができます。

スーパーS資金

年1.5%

(変動金利)